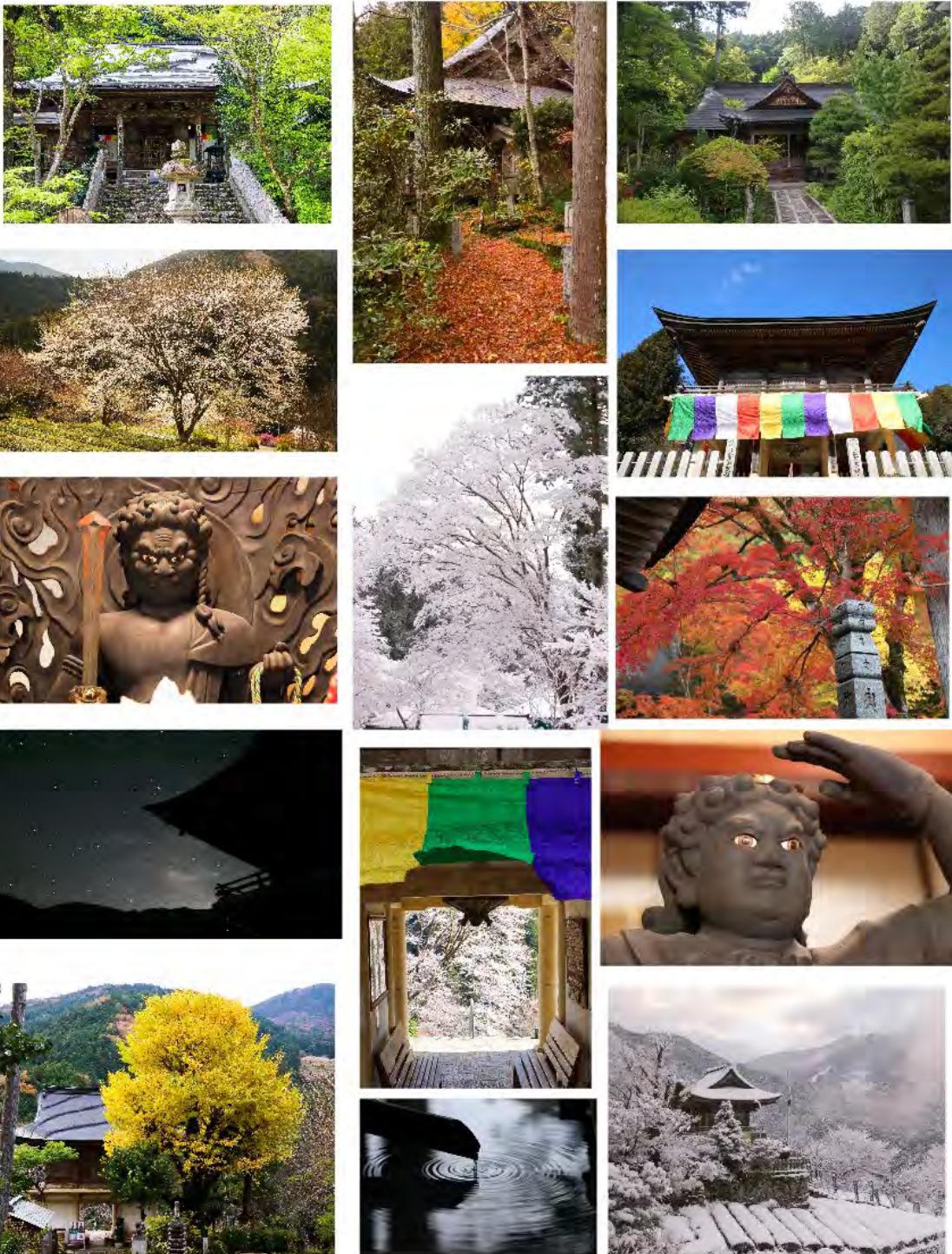


定福寺活動へのご協力のお願い



連絡先

〒7890167 高知県長岡郡大豊町粟生158

真言宗智山派 粟生山歡喜院定福寺 住職

豊永郷民俗資料館 主任学芸員

釣井龍秀

TEL 0887-74-0301 Email: tosa.jofukuji@gmail.com

はじめに

定福寺は、高知県長岡郡大豊町栗生にある真言宗智山派の古刹寺院です。定福寺のある大豊町は、四国の中心部の山深い山間地域に位置し、急峻な四国山地を横断する吉野川の両岸には、古来より生活や交易に使用された道がありました。現在でも JR・高速道路・国道が通り、四国の交通の要所でもあり、境内下には「豊永道」と呼ばれた古道が現存いたします。

定福寺の創建は古く、724年という記録があります。境内にはお堂が12宇、持仏堂から仁王門まで回廊があったと記されています。本堂や宝物殿に安置される仏像は、13体が平安時代作であることが、科学的調査によっても確認されました。

吉野川の南岸には、国境の往来を確認する番所や、山間地域で生活をする人々の文化的中心地のひとつとして、山岳寺院の定福寺があります。多くの寺院や神社は、朝廷や幕府の庇護や地域の有力者などを中心に、地域住民に支えられ維持されてきました。政策の変化により150年前の明治政府以来、定福寺は多くの部分で、地域住民の助力により護られてきました。200年前には9,000人の人口があり、70年前には23,000人の人口があり、護られてきました。

社会変化により、現在、大豊町の人口は3,000人弱となり、その内55%が65歳以上の高齢過疎地域となりました。社会が変化する一方で、かつて豊永郷と呼ばれた地域（大豊町の東北部2/3の地域）には、日本の原風景が残る場所として、様々な視点から注目を集める場所もあります。

このような環境の中で、定福寺では、定福寺やその周辺地域文化の保存活用を行うことで、維持管理を行なおうとし、研究調査や文化活動を行っています。



佛教と寺院

佛教は、「自分と社会の関係を、違った視点から考えるための思考と実践の体系と考えた方が理解しやすい」とおっしゃられる先生がいます。

定福寺のある豊永郷は、特殊な地域性、地理的環境の影響で昔からの古い風習が残る地域です。豊永郷で、自然に触れて頂くことで、非日常を感じることができます。

佛教は、お釈迦さまが生活の中で、「苦」と向き合ったことが、基点となっています。以来、自分を見つめ、他との関係性を考えてきた一面があります。佛教は古来より心を觀つづけてきた教えです。

佛教寺院である定福寺は、祈る場所であり、多くの人々に写経や写仏、瞑想や佛教講座などで「自分と向き合う」作業を切り口とし、「心」と「言動」に関して、佛教的な視点から問い合わせてきた学ぶ場所もあります。また、定福寺にはかつて寺子屋（学ぶ場所）や経蔵（図書館のような場所）、剣道場があり、境内では盆踊りが行われるなど、人が集う場所もありました。

定福寺は「祈る場・学ぶ場・集う場」であったことが、先師の記録からも伺えます。



廃仏毀釈と定福寺

1868年、明治の「神仏分離令」を発端に、明治の廃仏毀釈がはじまり、土佐（高知県）は影響を強く受けました。高知県は寺院や諸堂を合わせて600ヶ寺が影響を受け、高知県で廃寺を免れた真言宗寺院は16ヶ寺、天台宗寺院は0でした。吉野川沿岸で残った寺院は定福寺だけでした。豊永郷のこれまでの歴史と地域の人々の助力により、廃寺を免れたと考えられています。廃寺を免れたことを確認し、当時の住職野本進甲師は、高知県下の御縁の寺院を訪れ復興を行っています。一方で、定福寺も全く影響がなかったわけではなく、本堂以外は無となりました。

廃仏毀釈以後、地域住民や定福寺に御縁の方々の助力により、持仏堂・鐘楼堂・仁王門などが1980年代までに徐々に再建されてきました。

再興の過程で、豊永郷の人々の生活や文化の貴重な資料である、民具の収集が行われ、1973年7月に定福寺に隣接地に民俗資料館が完成いたしました。民具は、定福寺を護ってくださった人々が、日常生活で使っていた道具です。老朽化に伴い2016年には、豊永郷民俗資料館として再建されました。これにより豊永郷の人々の、文化を保存活用する活動が新しい段階に入りました。

講堂建立

現在の日本の現状では、最初に文化活動の助成や費用が削減され、当事者は各自で保存活用する手段を見出し、価値や意義を表現しなくてはなりません。そのためには調査研究が重要になります。

かつて定福寺には「定福寺ユースホステル」があり、日本文化に触れる場所、先進国となっていった出発点である考え方や生活を感じる場所、落ち着く場所として、世界各国から多くの人々に訪れて頂きました。学生など豊永郷で調査研究を行う人々には、広く開放いたしておりました。

定福寺ユースホステルの施設は、1967年に建設され、現在では老朽化、設計上も多くの人々が集える場所ではなくなっていました。

この度、関東より仏像を安置することになったことを契機に、多くの方にご寄付を賜り、その上、様々な場所に10年働きかけをおこない、2025年2月に銀行から8,000万円の融資を取付け、定福寺講堂を建築致しました。講堂とは、僧侶が学び、伝承した場所です。

講堂は、定福寺のかつての機能である経蔵（図書館）、寺子屋（学ぶ場所）、集う場所の役割を担います。これにより、定福寺が行ってきた明治以来の復興が完成したことになります。

講堂を活用した活動が続けられますように、これからも御寄付を宜しくお願いいたします。



これからの定福寺

定福寺は、豊永郷の自然環境、仏教寺院との役割、豊永郷民俗資料館を活用し、講堂において、豊永郷文化をはじめ多くの事を伝えていければと考えています。

現在は、希少植物や『万葉集』に詠まれた草花を楽しんで頂けるように、境内には土佐豊永万葉植物園が開園しており、地球環境などの自然環境教育活動などもおこなっています。

豊永郷民俗資料館は「人と自然 道具と具術」をテーマに、豊永郷の人々が自然をどのように考え、道具と技術を使用し生活をしてきたのかを展示いたしております。1950年代の豊永郷の人々の考え方や生活を知ることで、訪れた方が、何かの気づきがあればと考えています。

定福寺では、心を切り口とし、仏教講座、落語会など文化活動をおこなっています。

これらをまとめて、様々な研修活動を行い、企業や大学との連携も始まりつつあります。



地域文化財保存・保護活動

定福寺が関係する地域には、36の堂宇とお宮があります。お堂の調査や保存、また、古文書を所有するお宅から史料をお借りし、デジタル撮影、目録作り、冊子として記録を保存する取り組みを高知県の助成を受けおこなっています。また定福寺内の古文書の調査を高知城歴史博物館と連携し行っています。

地域の文化や史料の保存調査活動を続け、これらを活用しようとしています。



御寄付のお願い

定福寺では、周辺地域の文化の保存活用を行っています。また活用をするために定福寺の講堂を建立いたしました。

定福寺の活動に関してご賛同いただき、ご協力を頂ければ幸いです。
御寄付頂けた方は、名前を記させて頂きます。また個人で 50 万円以上の
御寄付を頂けた方、また企業やご法人として 100 万円の御寄進を頂いた
場合には、境内に石碑を建立させて頂きます。

直接ご連絡いただかずか、下記よりお振込みを宜しくお願い致します。

(1) 二次元バーコード決済



(2) お振込み先

寄付口座

- ・四国銀行 大田口代理店
普通9618339
宗教法人 定福寺(しゅうきょうほうじん じょうふくじ)
- ・高知銀行 豊永支店
普通3009475
宗教法人 定福寺(しゅうきょうほうじん じょうふくじ)
- ・ゆうちょ銀行
口座記号01620-7 口座番号12426
宗教法人 粟生山定福寺(しゅうきょうほうじん あおうざんじょうふくじ)

〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生158
電話 0887-74-0301



お問合せ先

定福寺 TEL : 0887-74-0301 メール : tosa.jofukuji@gmail.com